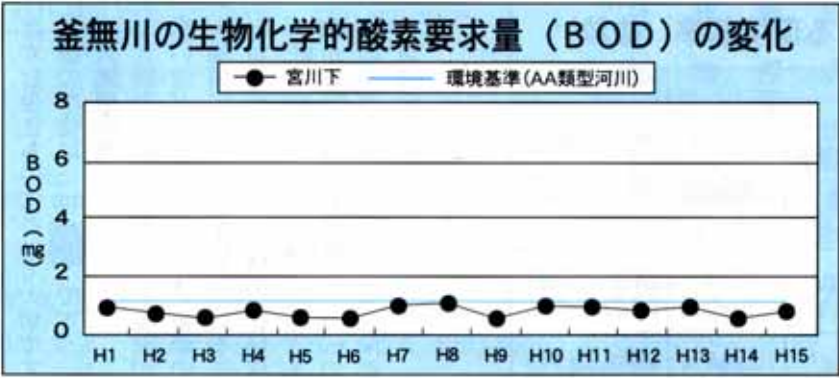
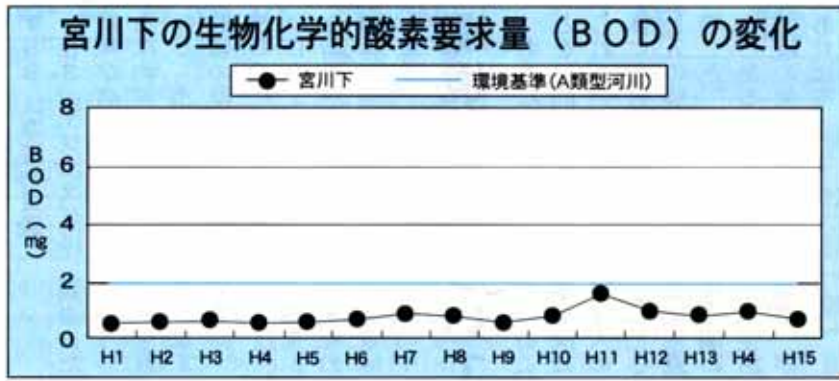


河川の水質

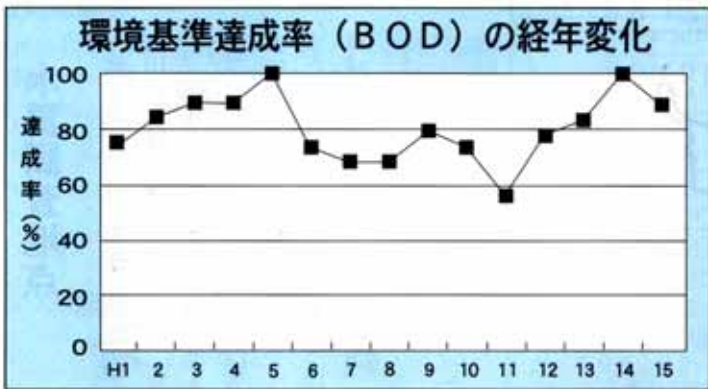
富士見町を流れる河川の水質の変化を、水質の代表的な指標となるBOD(生物化学的酸素要求量)について、水質調査地点のうち

「No.4:宮川下」と「No.18:釜無川」の2地点の状況をみてみます。この2地点は、調査地点の中でもっとも下流の地点で、富士見町の河川の水が集まる地点といえます。グラフを見ると、宮川下では平成11年に少し高い値を示しました

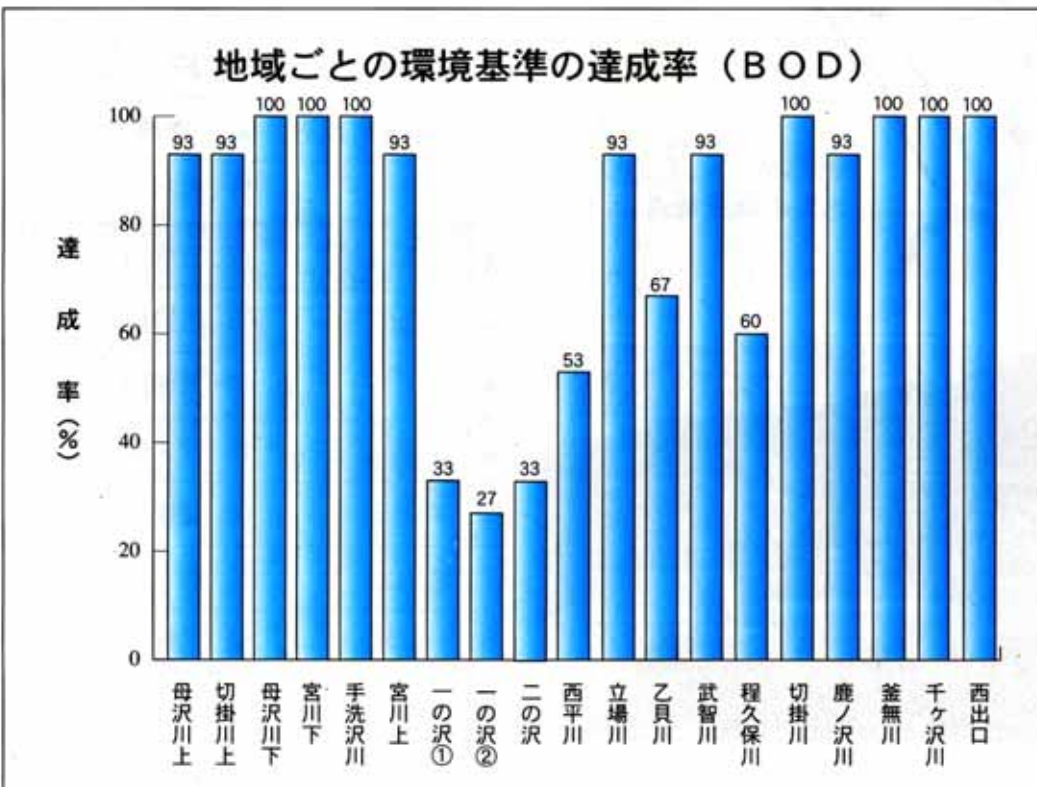


が、その後は低くなり、毎年、環境基準(A類型:2 mg/l以下)よりも低い値となっています。釜無川では大きな変化見られず、やはり毎年、環境基準(AA類型:1 mg/l以下)より低い値となっています。

長野県が平成14年度に県内の河川で行った水質調査では、BODが0.5以下〜3.0 mg/lで、平均値が1.1 mg/lなので、宮川下や釜無川のBODは、長野県の平均値とほぼ同じ値と言えます。



次に、BODの調査結果を環境基準と比較した結果(環境基準達成率)をみてみると左のグラフのとおりとなります。このグラフは、水質の調査を行っている19地点について、その年のBODの平均値が環境基準を達成した地点の割合を示したものです。グラフを見ると、平成元年から少しずつ達成率が高くなり、平成5年には100%となりましたが、平成6年からは達成率が下がりはじめ、平成11年には52.6%という低い達成率となりました。平成12年から再び達成率が高くなりはじめましたが、平成15年には少し下がっています。



今度は、調査した地点ごとの環境基準の達成率を見てみます。このグラフは調査地点ごとに、平成元年から平成15年までの15年間で、環境基準を達成した年の割合を表したものです。グラフを見ると、一の沢②と一の沢①、そして、二の沢の達成率

が低く、西平川も低い達成率となっています。これらの河川は町の中を流れている河川で、家庭などから出る水によって汚れていることが分かります。また、一の沢②は一の沢①よりも下流の地点ですが、下流になるほど水が汚れてしまっていることが分かります。